

様式第 2 (第12条関係)

加入国際学術団体に関する調査票

1 国際学術団体活動状況 (内規第 11 条 活動報告)

団体名	和	太陽地球系物理学科学委員会
	英	Scientific Committee on Solar-Terrestrial Physics (略 称 SCOSTEP)
	団体 HP (URL)	http://www.yorku.ca/scostep/ (日本学術会議が加盟していることの記載 有 ☒ 無)
国際学術団体における最近のトピックについて (学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等)		約 11 年周期で変動している太陽活動について、現在の第 24 期は「グランドミニマム」と呼ばれるほど、長期的に見ても太陽活動が非常に低い時期に入ったとされており、気候や地球システム変動への影響が当該分野の研究者だけでなく広く国民からも注目されてきている。また、これに伴い太陽自身の活動の研究も活気を帯びている。一方、太陽からのエネルギーで駆動される大気の応答、すなわち外部擾乱や地球大気内部に起因する変動がどのように全地球大気に波及するかといった「上下結合」の研究も精密観測と高性能モデリングで近年非常に進展した。
政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方式・研究助成方式等について		数百年規模の太陽活動の極小が社会に与える影響、また太陽や銀河での非常に大きな爆発による地球への影響、様々な地球大気の応答は、政策決定上も重要な事項となりうる。地球環境の自然起源、人為起源のトレンドは SCOSTEP の重要テーマの一つになっており、二酸化炭素の急激な増加とともにフロン排出規制の効果など近年の大気組成の変動の気象・気候への影響が明らかになってきている。
日本人役員によるイニシアティブ事項や日本からの参加によって進展や成果があったものについて		SCOSTEP が主導する国際協同観測研究計画は各国の提案を受けて、科学委員会（ワーキンググループ）、理事会、総会の議を通して決定される。それらの計画の中間評価と総括のために我が国は節目に国際シンポジウム（1979 年 IMS シンポジウム（東京）、1983 年 MAP シンポジウム（京都）、1994 年 STEP シンポジウム（仙台）、2000 年 S-RAMP シンポジウム（札幌）、2007 年 CAWSES シンポジウム（京都）、2013 年 CAWSES-II シンポジウム（名古屋））を開催した。最近では、5 年毎に国際協同観測研究プログラムを運用しており、2009-2013 年の CAWSES-II プログラムでは京大・津田教授が co-leader として主導し、成功に導いた。現在は、2014-2018 年の VarSITI プログラムの co-leader を名大・塩川教授が務めており、順調に成果が上がっている。過去にも多くのプログラムを日本が主導している。その間、我が国が主導した各種科学衛星（あけぼの、ジオテイル、れいめい、ひので等）や、大型地上観測測器（MU レーダー、EISCAT へ参加など）により、太陽・地球電磁圏・中層大気の構造とダイナミクスなど、顕著な成果をあげるにいたって

様式第 2 (第12条関係)

	いる。
加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民への効果やメリットについて	太陽地球系物理学の分野では、サイエンス面での優位性だけでなく、研究集会や国際協同事業におけるイニシアティブの面においても日本の存在感が非常に大きい。1957 年に実施された IGY から継続して IMS, MAP, STEP、PSMOS/EPIC/S-RAMP、CAWSES、CAWSES-II、VarSITI といった国際協同観測研究計画に、日本が積極的に参加し、かつ主導的な役割を果たしてきている。また、先端的観測プロジェクトや各種スクール、招聘・派遣事業などを通じて国内外の若手研究者の育成に効果があった。ICSU の中でも日本の貢献が顕著な委員会であり、わが国のステータス向上に資するところは大きい。
その他（若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期的な方策等の特記事項など）	SCOSTEP は、若手育成、発展途上国支援に特に力をいれており、活動支援の中でも Capacity Building への配分が大きい。途上国の若手を著名研究機関に派遣する Visiting Scholar プログラムなど特徴ある制度を導入している。また、役員等のジェンダーバランスにも配慮を行っている。

2 今後の予定について（内規第 11 条 活動報告）

総会、理事会の日本開催の予定について（招致等の予定も含め）	2013 年に CAWSES-II シンポジウムを 300 人超の規模で開催したため、近々に大規模な総会などの開催の予定はない。理事会等は他の組織の会合の予定にあわせて開催されることが多いため、今後開催される可能性もある。
日本人の役員立候補等の予定について	当面は、VarSITI 共同議長の塩川、理事の中村が役員を務める。科学領域代表 (SDR) については改選時に若手・中堅を中心に推薦を行う。
現在、検討中の日本からの提言や推進するプロジェクト等の動きについて	5 年毎の国際協同観測研究計画の立案には毎回わが国が貢献をしており、現行の VarSITI プログラムでも我が国の提案が強く反映されている。

3 国際学術団体会議開催状況（内規第 11 条 活動報告）

総会・理事会・各種委員会等の状況（過去 5 年間及び今後予定されているもの）	総会開催状況	科学総会 (STP シンポジウム) 2018 年（開催地：加・カルガリー）、2014 年（開催地：中国・西安）、2010 年（開催地：独・ベルリン）、 代表者会議（総会） 2015 年（開催地：チェコ・プラハ）、2014 年（開催地：中国・西安）、2013 年（開催地：日・名古屋）、2011 年（開催地：豪・メルボルン）
	理事会・役員会等開催状況	理事会 2016 年（開催地：加・トロント）、2015 年（開催地：チェコ・プラハ）、2014 年（開催地：中国・西安）、2014 年（開催地：チェコ・プラハ）、2013 年（開催地：日・名古屋）、2013 年（開催地：スイス・ベルン）、2012 年（開催地：奥・ウィーン）、2011 年（開催地：米・グリーンベルト）、2011 年（開催地：豪・メルボルン）

様式第2 (第12条関係)

の)	各種委員会 開催状況	将来検討委員会 2013 年 (開催地: スイス・ベルン)、		
	研究集会・会 議等開催状 況	CAWSES-II/VarSITI プログラムに関連し、毎年数件から 15 件程度の 国際研究集会や大学院生・若手研究者向けの国際スクールを、 SCOSTEP 経費で支援・開催している。代表的なものを以下に示す。 第 1 回 VarSITI 総合シンポジウム 2016 年 (開催地: ブルガリア・ アルペナ) SCOSTEP-WDS ワークショップ 2015 年 (開催地: 日本・東京) ISELLI 国際スクール 2015 年 (開催地: ナイジェリア・アブジャ) ISELION 国際スクール 2015 年 (開催地: インドネシア・バンドン) 国際 CAWSES-II シンポジウム 2013 年 (開催地: 日本・名古屋)		
上記会議等への日本人 の参加・出席状況及び 予定		2015 年、代表者会議(プラハ)、2 名 (うち代表派遣: 中村卓司) 2014 年、科学総会 (西安)、7 名 (うち代表派遣: 塩川和夫) 2014 年、理事会 (西安)、3 名 (うち代表派遣: 中村卓司) 2013 年、シンポジウム(名古屋)、180 名 2014 年、理事会(プラハ)、2 名 2013 年、将来検討委員会(ベルン)、4 名 (うち代表派遣: 中村卓司)		
国際学術団体における 日本人の役員等への就 任状況 (過去 5 年)	役職名	役職就任期間	氏名	会員、連携会員の別
	VarSITI 共 同議長	2014 ~ (2018)	塩川和夫	(期) 会員・連携
	理 事 (Bureau)	2011 ~	中村卓司	(23 期) 会員・ 連携
	CAWSES-II 共同議長	2011 ~ 2013	津田敏隆	(22. 23 期) 会員・ 連携
	科 学 領 域 代表 (SDR)	2011~	花岡庸一郎	(期) 会員・連携
	//	2011~	片岡龍峰	(期) 会員・連携
	//	2011~	坂尾太郎	(期) 会員・連携
	//	2015~	高橋幸弘	(期) 会員・連携
	//	2015~	篠原 育	(期) 会員・連携
	//	2015~	Huixin Liu	(期) 会員・連携
出版物	1 定期的 SCOSTEP Annual Report (年 1 回) VarSITI newsletter (年 4 回) 2 不定期 SCOSTEP Newsletter (年 2 回程度) Comic Books in more than nine different languages			
活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載 (http://www.yorku.ca/scostep/?page_id=323 http://www.yorku.ca/scostep/?page_id=135)				

様式第2 (第12条関係)

4 国際学術団体に関する基礎的事項 (内規第3条、4条、5条)

国内委員会 (内規4条第3号)	委員会名	地球惑星科学委員会・国際連携分科会・SCOSTEP 小委員会
	委員長名	中村 卓司
	当期の活動状況	(開催日時 主な審議事項等) 第1回 平成26年12月10日 18時—19時 主な審議事項 委員長/幹事の選出と委員の追加について SCOSTEP 議長/副議長改選について 第2回 平成27年5月10日 13時—14時 主な審議事項 委員の追加について STPP 小委員会との分担について
内規第3 (国際学術団体の要件関係)	国際学術交流を目的とする非政府的かつ非営利的団体である ①. 該当する 2. 該当しない ※根拠となる定款・規程等の添付又は URL を記載 (http://www.yorku.ca/scostep/?page_id=14)	
	各国の公的学術機関及び学術研究団体等が国際学術団体に国を代表する資格を有して加入するものが、主たる構成員となっている (主たる構成員が、いわゆる「国家会員」であるか否か) ①. 該当する 2. 該当しない ※根拠となる資料の添付又は URL を記載()	
	下記の事項 (ア～エ) のいずれか一つに該当するか (該当するものに○印) ア 個々の学術の専門分野における統一の組織を有するもの ①. 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、統一の組織を有するもの (Interdisciplinary Body) ウ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、ア又はイの国際学術団体を連合した世界的組織を有するもの エ 構成員のうち、各国代表会員がアジア地域等我が国が関係する地域等に限られるものであって、当該国際学術団体の研究の領域が複数の専門分野にわたるもの	
	10 ヶ国を超える各国代表会員が加入している ①. 該当する 2. 該当しない	
	加入国数及び	(30ヶ国)

様式第 2 (第12条関係)

	主要な各国代表会 表会員を 10 記載	・ 各国代表会員名／国名 National Academy of Sciences, USA Russian Academy of Science, Russia Australian Academy of Sciences Chinese Society of Space Research, China CNES & COFUSI, France German Research Organization, Germany IScience and Technology Facility Council, UK Indian National Science Academy, India Royal Academy of Sciences, Sweden Norwegian Space Centre, Norway
--	------------------------------------	---